SO,からの硫酸エアロゾル生成におけるダイナミクス

小原ひとみ(産業技術総合研究所)

1. はじめに

環境中の気相化学反応の多くは、光化学反応により生成する OH ラジカルから引き起こされる¹⁾。大気中 の二次粒子の生成も、この OH ラジカルによる気相酸化反応が引き金になることが多い。大気中に広く分布 する硫酸エアロゾルの一部も、SO2 と OH との反応により硫酸分子が生成し、蒸気圧の低い硫酸が周囲の水 と結合して核となり、液滴粒子を生成する gas-to-particle conversion により生じる。このようにして生 成・成長した硫酸液滴は大気中に広く分布するが、特に成層圏に存在するものはバックグラウンドエアロソ ルと呼ばれ、極成層雲(PSCs)生成に寄与すると言われている²⁾。

しかしながら、気相反応に比較すると、液滴への相変化を含む粒子生成あるいは変質に対する知見は少な く、粒子生成予測のための定量的なデータが不足している段階である。その大きな原因の一つには、シミュ レーション実験を行うにあたり、大気濃度に近い低濃度の反応ガス、あるいはそれらの反応から生じる生成 物の反応器の壁面に対する吸着損失が大きいために、それらの正確な分析が困難であることがあげられる。

SO₂からの硫酸エアロゾル生成反応において最も興味深い相変化(硫酸分子→硫酸液滴)を観察するため には、硫酸ガスを含む反応ガスを反応系に供給する必要があるが、蒸気圧の低い硫酸をガスとして得るのは 非常に困難である。

そこで本研究では、低濃度の SO2 からの粒子生成を観察し、反応ガスと生成粒子との関係を明らかにする ために、壁面のロスを最小限に抑えた流通式反応容器を製作し、SO2、O3 及び水蒸気を含む精製空気に紫外 光照射を行った。O3の光分解から得られた OH ラジカルと低濃度(サブ ppm レベル)の SO2 との反応を 開始反応とする連鎖反応として粒子を生成させ、粒子の計測ならびに組成分析を行った。



Fig. 1 Schematic Diagram of a Flow-Type Reactor

2. 実験

本実験では、流通式のガラス反応容器とエキシ マレーザー光源(hv = 248 nm)から構成する光 化学エアロゾル反応実験装置を使用した(Fig.1)。 このフローリアクタは整流部と光照射部からなり、 反応ガスは光照射部で層流に保たれる。反応管の 中心軸上にレーザー光を照射することで、壁面の 影響を受けることなく粒子生成反応を起こすこと ができる。この反応容器に、SO2、O3 及び水蒸気 を含む空気を層流で流し、248 nm のレーザーパ ルス光を照射した。SO2 はこの波長では光分解せ ず、O3の光分解反応が気相化学反応から粒子生成 を引き起こす開始反応となる。光照射管の位置を 反応時間0秒とし、サンプリング管の先端の位置 を前後に移動させて反応時間の異なる試料を取り 出した。反応時間毎の粒子の計測は走査型モビリ ティー粒径分析器 (TSI SMPS 3934) により行っ た。また、粒子の化学成分は、テフロンフィルタ

ーを 8 枚重ねて粒子を捕集し(捕集効率 > 99%)、水に溶解させてイオンクロマトグラフ(横河アナリティ カルシステムズ、IC 7000D) で分析した。実験はすべて、大気圧下、室温で行った。

モデル計算は、気相化学反応と粒子生成ダイナミクスを組み合わせ、さらにレーザー照射部と非照射部間 の反応種の拡散による濃度勾配を考慮して構築した(Table 1)。硫酸からの粒子転換速度を J とし、この J の 値を実験値にフィットさせて方程式を完成させた。

Table 1

Chemical Reactions		O(¹ D)
$O_3 \rightarrow O(^1D) + O_2$	$k_1 = 1.81$	NO+
$O(^{1}D)+H_{2}O\rightarrow 2\cdot OH$	$k_2 = 2.20E-10$	NO ₂ +
$\cdot OH + SO_2 + M \rightarrow \cdot HOSO_2 + M$	$k_3 = 2.00E-31$	· HO2
·HOSO,+O,-→·HO,+SO,	$k_4 = 4.33E-13$	·OH-
SO ₄ +H ₂ O→H ₂ SO ₄	$k_5 = 1.00E-15$	O(³ P)
$O(^{1}D)+O_{3}\rightarrow O(^{3}P)+O(^{3}P)+O_{2}$	$k_6 = 2.40E-10$	O(¹ D)
$O(^{1}D)+O_{3}\rightarrow O_{2}+O_{2}$	$k_7 = 2.40E-10$	O(³ P)
$O(^{1}D)+O_{3}\rightarrow O(^{3}P)+O_{3}$	$k_8 = 2.40E-10$	· HO ₂
$O(^{1}D)+O_{2}\rightarrow O(^{3}P)+O_{2}$	$k_9 = 4.04E-11$	·OH-
$O(^{1}D)+N_{2}\rightarrow O(^{3}P)+N_{2}$	$k_{10} = 2.57E - 11$	·OH·
$O(^{1}D)+N_{1}O\rightarrow N_{1}+O_{2}$	$k_{11} = 4.90E-11$	·OH·

O(¹ D)+N ₂ O→NO+NO	$k_{12} = 6.70E-11$
$NO+O_3 \rightarrow NO_2+O_2$	$k_{13} = 1.80E - 14$
NO ₂ +O ₃ →NO ₃ +O ₂	$k_{14} = 3.20E - 17$
$\cdot HO_2 + NO \rightarrow \cdot OH + NO_2$	$k_{15} = 8.10E - 12$
$\cdot OH + \cdot HONO \rightarrow H_2O + NO_2$	$k_{16} = 4.50E - 12$
$O(^{3}P)+H_{2}O \rightarrow OH+OH$	$k_{17} = 6.79E-14$
$O(^{1}D)+N_{2}+M\rightarrow N_{2}O+M$	$k_{18} = 1.90E-12$
$O(^{3}P)+SO_{2}+M\rightarrow SO_{3}+M$	$k_{19} = 4.88E-33$
$\cdot HO_2 + NO_2 + M \rightarrow \cdot HO_2 NO_2 + M$	$k_{20} = 3.30E-11$
·OH+NO+M→·HONO+M	$k_{21} = 8.34 \text{E} \cdot 15$
·OH+NO₂+M→HNO₃+M	$k_{22} = 7.00E-13$
·OH+·OH+M→H ₂ O ₂ +M	$k_{23} = 7.28E-24$

$$O(^{3}P)+O_{3}\rightarrow O_{2}+O_{2}$$
 $k_{24}=3.50E-37$ $\cdot OH+ \cdot OH \rightarrow H_{2}O+O(^{3}P)$ $k_{27}=7.00E-31$ $O(^{3}P)+SO_{3}\rightarrow SO_{2}+O_{2}$ $k_{25}=6.00E-34$ $O(^{3}P)+O(^{3}P)\rightarrow O_{2}$ $k_{28}=2.50E-30$ $O(^{3}P)+ \cdot OH \rightarrow O_{2}+H$ $k_{26}=1.80E-31$ $\cdot OH+O_{3}\rightarrow \cdot HO_{2}+O_{2}$ $k_{29}=6.20E-31$

Gas-phase diffusion and aerosol dynamics for aerosol*

$$\frac{d[O_3]_o}{dt} = \frac{2aD}{(b^2 - a^2)} \frac{[O_3]_i - [O_3]_o}{l_0}$$

$$\frac{d[SO_2]_o}{dt} = \frac{2aD}{(b^2 - a^2)} \frac{[SO_2]_i - [SO_2]_o}{l_0}$$

$$-k_1 [O_3] - k_7 [O(^1D)][O_3] \dots$$

$$\frac{d[O_3]_i}{dt} = \frac{2D [O_3]_o - [O_3]_i}{l_0}$$

$$d[SO_2]_i = 2D [SO_2]_o - [SO_2]_i$$

$$\frac{1}{dt} = \frac{1}{a} \frac{1}{l_0} \frac{1}{l_0} \frac{1}{1} \frac{1}{a} \frac{1}{$$

$$\frac{d[H_2SO_4]}{dt} = k_5[SO_3][H_2O] -Jk*-([H_2SO_4]-[H_2SO_4]^{\infty})\sqrt{\frac{kT}{2\pi m_1}} A$$

$$\frac{dNp}{dt} = \frac{J}{[H_2SO_4]} - K Np^2$$

$$\frac{dM_1}{dt} = Jdp*+([H_2SO_4]-[H_2SO_4]^{\infty}) 2v_1\sqrt{\frac{kT}{2\pi m_1}} Np$$

$$\frac{dA}{dt} = Jk^{*23} s_1 + ([H_2SO_4]-[H_2SO_4]^{\infty}) 4\pi v_1\sqrt{\frac{kT}{2\pi m_1}} M_1$$

$$\frac{dV}{dt} = Jk^{*} v_1 + ([H_2SO_4]-[H_2SO_4]^{\infty}) v_1\sqrt{\frac{kT}{2\pi m_1}} A$$

D: diffusion coefficient of gaseous molecule, a: diameter of laser beam, b: diameter of the reacter, l_0 : diffusion length, [C]_i, [C]_o: the concentration of the species C inside and outside the laser irradiated area, J: nucleation rate, k^* : number of molecules in a critical cluster, $[H_2SO_4]^{\infty}$: saturation concentration, k : Boltzmann's constant, Np, A, and V: aerosol number, surface, and volume concentration, m_1 :, s_1 , and v_1 : mass, surface, and volume of a H₂SO₄ molecule, K: coagulation constant, M_1 : first moment of the size distribution.

*Raes et al. (Aerosol Sci. Technol., 856, 1990)

3. 結果と考察

反応によって減少した SO2 と粒子に含まれる硫酸で比較した S の物質収支は、反応時間 1 秒では 85%と非 常に高い値であった。リアクタ内での拡散を考慮した粒子生成モデルでは、SO2の濃度変化をよく再現する ことができた。また、反応時間の短い条件における粒子計測の値を再現できるようにモデル計算を行った結 果、粒子転換速度」の値を求めることができた。 12 12

表 2 本実験で得 熱力学平衡モデル	られた粒子中の SO ₄ 2 いによる計算値との比	[・] 濃度と 較	
Reaction time	1 s	7 s	
SO ₄ ² concentration	70 wt%	8 wt%	
	粒子生成直後	粒子成長後 (> 40 nm)	
calculated value	64 wt%	45 wt%	10 20 30 40 50 100 250
			diameter(nm)
			図 2 粒子径分布の時間変化 SQ:179 pph Q:04 ppm

SO₂: 179 ppb, O₃: 0.4 ppm, H₂O: 38% RH, 25 °C, 0.2 W/cm²

	拉丁 生成直後	私丁成長後 (>40 nm)	'nN
calculated value	64 wt%	45 wt%	
1) J. G. Calvert ar	l nd W. R. Stockwell ⁴	"SO ₂ NO and N	10-
Oxidation Mechanis	sms: Atmospheric Co	nsiderations", Ed	. J.

G. Calvert, Butterworth(1984), p. 1.

2) S. C. Wosfy, R. J. Salawitch and M. B. McElroy, J. Atmos. Sci., 47, 2004- (1990).